

メッセージアウトライン

ローマ12：14～21「善をもって悪に打ち勝つ」

[14]「あなたがたを迫害する者を祝福しなさい。祝福すべきであって、のろってはいけません」 愛による行動は信仰者どうしだけではなく、すべての人に向けられなければならない。それは信仰者を様々な形で苦しめ、迫害する人たちも当然含まれる。自分たちを苦しめ迫害する者たちに対して、のろうのではなく祝福する。これは生まれながらの人間の力では不可能である。しかしキリストは私たちの罪のために十字架にかかって死んでくださったキリストの愛、神の愛を知り、体験しキリストにあって新しい者とされ、助け主なる聖霊が内に住んでいてくださるので(1コリント6:19)、その愛をもって敵対する人々に対しても行動することが求められる。神が「…しなさい」と言われる時、神は必ずそのための力も与えてくださる。→申命記30:14

[15]「喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい」

キリストちゃんはお互いがキリストのからだの部分として喜びや悲しみを共有すべきことが教えられる。

[16]「互いに一つ心になり、高ぶった思いを持たず、かえって身分の低い者に順応しなさい。自分こそ知者だなどと思っはいけません」

キリストにあって一体とされた者として国籍、地位、性別、文化的背景等を越えて一つ心になるべきこと、他人と比較して高ぶることなく、社会的に低い立場、弱い立場にある人々を思いやり、共に歩むべきことが求められる。

[17-18]「だれに対してでも、悪に悪を報いることをせず、すべての人が良いと思うことを図りなさい。あなたがたは、自分に関する限り、すべての人と平和を保ちなさい」 怒りや復讐、うらみ、つらみの思いに支配されるのではなく、正しいさばきをしてくださる神にすべてをゆだね、すべての人と平和を保つように最善を尽くすべきことが求められる。

[19]「愛する人たち、自分で復讐してはいけません。神の怒りに任せなさい。それは、こう書いてあるからです。『復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする、と主は言われる』」パウロは申命記32:35から引用し、自ら復讐することなく、神の怒りに任せるべきであることを教える。神こそ人を公正にさばくことのできる唯一のお方である。

[20-21]「もしあなたの敵が飢えたなら、彼に食べさせなさい。渴いたなら、飲ませなさい。そうすることによって、あなたは彼の頭に燃える炭火を積むことになるのです。悪に負けてはいけません。かえって、善をもって悪に打ち勝ちなさい」

20節は箴言25:21～22よりの引用。ただ復讐を神にゆだねるだけでなく、敵対する者に対して、積極的に善を行っていく勧め。「頭に燃える炭火を積む」とは神の燃えるようなさばきを与えるという意味ではなく、相手を救いに導く激しい魂の痛み、自責の念をもたらすという意味。憎しみによる報復は決して相手をキリストに導くことはない。

21節は今まで述べてきたことの結論である。